

1 日 時 令和 3 年 10 月 18 日 (月) 午前 10 時～午前 11 時 30 分

2 場 所 大阪市役所 地下 1 階 第 11 共通会議室

3 出席委員 荒木委員、井上委員、岩元委員、木曾委員、喜多村委員、酒井委員、福田委員、  
溝上委員、安原委員

**【議題 1 発達障がい者支援センター事業実施状況について】**

(発達障がい者支援センター鹿野係長)

**【発達障がい者支援センター実施事業について、資料 1 に基づき説明】**

**【議題 2 発達障がい者支援施策の実施状況について】**

(福祉局発達障がい者支援担当森本課長代理)

**【発達障がい児専門療育、市民への啓発について資料 2 に基づき説明】**

(こども青少年局子育て支援部管理課友田保健副主幹)

**【4・5 歳児発達障がい相談について資料 2 に基づき説明】**

(教育委員会事務局指導部兼中央こども相談センター教育相談担当牛尾課長)

**【幼稚園教諭・保育士等に対する研修等の実施(市立幼稚園教諭)、発達障がい研修支援事業について資料 2 に基づき説明】**

(こども青少年局保育・幼児教育センター研修・企画担当永谷課長代理) (Web)

**【幼稚園教諭・保育士等に対する研修等の実施(私立幼稚園教諭、保育士)について資料 2 に基づき説明】**

(教育委員会事務局指導部インクルーシブ教育推進担当平岡課長) (Web)

**【巡回相談体制の強化、キャリア教育支援事業について資料 2 に基づき説明】**

(こども青少年局子育て支援部こども家庭課森川課長)

**【児童養護施設での発達障がい児自立支援事業について資料 2 に基づき説明】**

(福祉局障がい者施策部障がい福祉課八木課長)

**【発達障がい者就労支援コーディネーターの配置について資料 2 に基づき説明】**

**《質問・意見など》**

(福田委員)

ペアレント・トレーニングの参加者について徐々に減少傾向にあるとのことだが、働く女性が増加したことが関係していると思われる。

必要とは感じているが、家庭や社会の状況により参加が難しくなっていると思われるので、開催時間や日にちなどを考える必要が出てきているのではないかと。

〈井上委員〉

開催場所は新型コロナウイルスの関係で区民センター等の利用ができず、限られた場所となってしまった。

また、新型コロナウイルスの関係か、少し神経質な保護者も増えてきている印象を受ける。

〈福祉局発達障がい者支援担当森本課長代理〉

ペアレント・トレーニングの開催について、昨年度の参加状況等を考慮し、開催をしているがなかなか思ったとおりの人数が集まらない状況にあり、読みにくい部分がある。

以前には土曜日に開催したこともあり、今後も参加しやすい時期や様々な会場で開催することで、24区どの区の方でも参加しやすいように配慮していきたい。

〈岩元委員〉

資料2の18ページにある4・5歳児の発達障がい相談について、令和2年度・3年度の累計を見ると、年間を通しての紹介の割合が令和3年度のほうが20%程度上回っているが、これは医療機関の数が増えてきたことが要因となっているのか、それとも発達障がいと疑われるお子さんの割合が増えてきたことが要因なのか、何か理由はあるのか。

〈こども青少年局子育て支援部管理課友田保健副主幹〉

医療機関の紹介の割合が増えていることについてだが、内容は24区でそれぞれ行っていることなので、今の時点では詳しい要因などはわからないため、今後精査していきたい。

〈安原部会長〉

昨年度医療機関に調査された内容について、ホームページなどに掲載されているのか。

〈福祉局発達障がい者支援担当森本課長代理〉

委員のご意見・ご指摘のとおり、昨年12月に市内の医療機関、全小児科と精神科に調査を行い、その結果については現在取りまとめているところである。この後の議事4「その他」の項目で改めて報告するが、調整ができ次第、ホームページなどに掲載する予定となっている。

〈木曾委員〉

ペアレント・トレーニングについては土曜日の開催などにしても、お子さんを預けて参加するのは難しいと思うので、それよりもティーチャーズ・トレーニングを充実させて、取組をもう少し広げてみてはどうか。

またペアレント・トレーニングについて、なぜ途中で参加しなくなったのか。

〈井上委員〉

学齢期の方は子どもを預かってもらえる平日のほうが参加しやすい状況にある。

発達障がいのある子どもの親には特性を持っておられる方もおり、ペアレント・トレーニングに来られなくなることもある。

ティーチャーズ・トレーニングは来年度も頑張りたい。

〈喜多村委員〉

ペアレント・トレーニングについて、参加者の増減があるとのことだが、途中で辞められる方のことについて、分析してみてもどうか。

社会的な情勢からみて、ペアレント・トレーニングのニーズは増えているはずであり、ペアレント・トレーニングを開催している機関も増えてきているように思う。

大阪市として今後どのような位置づけで実施していくか考える必要がある。

ティーチャーズ・トレーニングのニーズが高いのは理解するが、ペアレント・トレーニングを必要とする方も一定数いるはずなので、開催時間の問題、物理的な問題で来ないのか、あるいは途中で断念される方というのは、どういう理由で断念されたのか、断念した後どうされているのか等を追跡していただきたい。

〈福田委員〉

ペアレント・トレーニングを途中で断念することについて、ペアレント・トレーニングを受講されるときは親御さんが一番大変な時期であり、参加した時に宿題を出されることも多く、負担が大きい部分もある。

私自身が受講していた時も10回の講座のうち2、3回休んだことはあるが、しんどいと感じたときにサポートしてくれる方がいて助かった部分がある。

最近の世帯の状況からご両親と住まれている方も少なく、核家族も多くなってきていることから、身近なサポートを受けられる機会が少なくなってきているようにも感じる。

その辺りを上手にサポートしてもらえたら、途中で断念する方が減るのではないかと。

〈岩元委員〉

資料1-3、2ページのペアレント・トレーニング実践報告会の参加者数について、保護者が20名に対し、支援者が58名参加しており、保護者の割合が低い。

次のページの親御さんからの感想では、希望を抱くような感想もあり、こういった方が次年度のペアレント・トレーニングを受講されるのかと思うが、諸々の理由が重なって辞めていかれるのかと思う。

始めるときの意識づけはできているように思うが、福田委員の言うように、寄り添ってサポートしていくことが必要と思われる。

また、他の委員からもあるように辞められた方の気持ちを理解しているかどうかが大事。

話は変わるが、先日相談支援事業所の方から、ADHDの方の対応に困っているため保育所等訪問支援を受けたいと相談を受けた。

私どもの対象区でないこと、肢体不自由児の専門性が主であるため、別の事業所を紹介したが、

区を超えて支援の手を差し伸べられているかというそのような状況ではない。

教育委員会からも説明はあったが、具体的なメソッドの講演であれば、オンライン実施も可能だが、実際に来られている方への直接的な支援の助けなどがあれば、より福祉と教育がつながり、支援が進んでいくように思う。

あと、啓発活動の充実も必要であり、これらの取組を行うことで、救いの手を求めるところが増えていくことにもつながるので、今後取り組んでいただきたい。

〈安原部会長〉

この頃、放課後等デイサービス事業所を利用される方も多くなってきており、そこで親支援をきちんとしないといけないと思うことが出てきている。

私の大学にも放課後等デイサービス事業所から来てもらえないかと声がかかることがあるが、そういうお子さんのことをしっかりとわかってくれるところで、親御さんと一対一、あるいは少人数で集まる機会があると、親御さん同士が仲良くなり、グループでの集まりに抵抗感が減り、ペアレント・トレーニングとまではいかないが、いろいろなところへ話をふれる機会が増えていくように思われる。

ペアレント・トレーニングを辞めずに継続していってもらうためには、そういうことも大事だと考えられる。

あと、ティーチャーズ・トレーニングについて、困っている先生方も多くおり、熱心に聞きに来られる方も多い。

最近になり保育園・幼稚園・小学校くらいまでの先生方はやっとな発達障がいのことについてわかってくれているような印象を受けることが増えたが、中学校・高校については、未だ理解が深まっていない印象にある。

今後は中学校・高校といったところへの研修も充実させていただきたい。

### 【議題3 切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくりについて】

(福祉局発達障がい者支援担当森本課長代理)

#### 【切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくりについて資料3に基づき説明】

(井上委員)

#### 【情報共有ツール(サポートブック)「就学前編、高校入学前編、成人期編」の作成状況及び試用状況について資料3に基づき説明】

### 《質問・意見など》

(福田委員)

このようなものを作ってもらい、ありがたいと思っているが、公立だけでなく、私立の高等学校等全てのところで使えるようにしてもらいたい。

大学は本人が申し出をしないと整理できないと聞いているので、本人のほうもしっかりと発達障がいということを理解されたうえで伝えていかなければならないと思われる。

〈荒木委員〉

本当にいいものを作っていると思う。

ただ意見のところにも書かれているが、本人や親御さんが一人で書くのは難しいように感じる  
ので、身近にアクセスができるところに、一緒に作成してくれる人がいるとよいのではないか。

身近なところで一緒に作成してくれる人的な資源を用意し、相談する人も情報共有ツールにつ  
いて知らない適切なアドバイスができないので、そういう形でもスタッフ等への支援もしてい  
ただきたい。

〈喜多村委員〉

私も記入マニュアルのようなものが必要と考える。

井上委員の話ではいろいろなご意見があるようだが、試用者が少ないため、ここから何かデー  
タをとるのは難しい。

専門家が言う意見と、実際に使ってみた方の意見は違うと思われるので、試用者数がもう少し  
必要であり、試用者の方々の生の声が重要。

出来栄はかなり完成度が高いので、これ以上修正するのではなく、マニュアルを作成し、記  
載方法を示したほうがよい。

〈酒井委員〉

高校生になると主体が本人になるということは大事な視点である。

今後成人期向けも作るとのことだが、就労の場面では自己理解というのは重視していく部分で  
ある。

ただ成人期になると本人の状況は様々であり、就労場面によっては、既にナビゲーションブッ  
クとか就労サポートブックとか様々な似たようなツールを利用している方が多い。

教育の場面でも個別支援計画があり、その人の特性を整理するときに二度手間とならないよう  
に、成人期の情報共有ツールも作っていただきたい。

〈岩元委員〉

成人期の情報共有ツールについて、先ほども話にあったように、成人期は本人の状況が様々で  
あることから、自分を見つめることができる自分ノートのような、自己理解につながるような内  
容であればよいように思う。

〈安原部会長〉

事業所が違って、細かい内容は難しいかもしれないが、一定の内容が伝わるような、わかり  
やすいものができればよいと思う。

#### 【議題4 その他】

(福祉局発達障がい者支援担当森本課長代理)

#### 【発達障がいの診断等に係る情報提供等について資料4に基づき説明】

#### 《質問・意見など》

特になし